



# 負けましたと言える強さを



今日の全校集会でお話しした内容に少し補足をして紹介します。

「今日は、このあと表彰状の伝達を行います。将棋の大会で素晴らしい結果を残した人がいます。なので、今日は将棋について少しお話をしたいと思います。その前に、スポーツにはいろいろな勝敗のつき方があります。例えば、野球は9回まで行って得点の多いほうが勝ちです。バレーボールは25点マッチでセット数を争います。バドミントンや卓球も同じ形式です。バスケットボールなどは第1クォーターから第4クォーターまでの合計点、同様にサッカーも前半後半の合計得点で勝敗を決めます。では将棋の勝ち負けはどうやって決まるのでしょうか？将棋は、働きの違う駒を使って相手の「王」をとるゲームです。普通なら「王」を取られて試合終了ですが、最後までやらずに、何手か先を読みます。

そして、自分が負けたと確信した時、「自ら投了をして」**負けを自分で認める**ルールになっています。このことについて、ある有名な棋士は次のように述べています。とてもシンプルでカッコいいです。

『「負けました」と言って頭を下げるのが正しい投了の仕方です。辛い瞬間です。でも、**「負けました」と、ハッキリ言える人はプロでも強くなります。**これを、**いいかげんにしている人は上にはいけません。**』と。この自分の負けを潔く認める力、自分の弱いところ、間違いを認められる力のある人は、成長することができるということだと思います。そこには素直さが必要です。では、素直な人とはどんな人でしょうか。それは、「自分の、いたらない面や弱い面とちゃんと、向き合えることのできる人」だと校長先生は思います。

以下、素直な人の特徴です。

1. 自分のいたらない面と、ちゃんと向き合える人
2. 人の話をしっかりと聞くことができる人
3. 誰にでも平等に接することができて偏見がない人
4. 何事も疑わず、ありのままを受け入れる人



どうでしょう。みんなの周りにこんな人はいますか？自分はどうでしょう？誰でもこんな人と友達になりたいと思いませんか？潔く自分の間違いや失敗を認める素直さを忘れずに、これからも頑張っていきましょう。